

九州北部豪雨水害に伴う 星野村被災地域の復興ボランティア現地レポート

報告：日田綾香

(福岡 YMCA 通信制高校・サポート校スタッフ)

今年 7 月に北部九州を襲った豪雨は各地で多大な被害をもたらしました。物的、人的支援が急務で、各地から多くのボランティアの方が現地に行かれています。福岡 YMCA から 7 月と 8 月にかけて八女市黒木町を中心に復興ボランティアをさせていただきました。8 月の時点では、星野村までの道が豪雨により寸断されており、行くことが出来ませんでしたが、10 月から星野村への復興ボランティアの活動が開始されています。そこで、12 月 2 日(日)福岡 YMCA から参加者を募り、8 名で現地に向かいました。

当日マイクロバスに乗り、八女市役所星野支所へ向かいました。八女市内から星野村へ向かう途中には、豪雨によって崩れた家や山、橋があり、被害の大きさを痛感しました。



星野支所に到着すると、災害ボランティア支援隊の代表 肥後 孝さんが受付・グループ分け・活動内容の説明をしてくださいます。

当日の参加者は、福岡県内の方が多く、女性一人での参加者もおられました。また地域の高校生が、自ら参加したいと願って来ていた方もおられました。なぜ、参加したのかを尋ねると、「自分の地域も被災し、支援をうけたのでその御礼に」と言っておられました。一人でも多くの方に被災地のことを知ってもらい、支援をしていくことが復興のためには欠かせないと感じました。

今回のボランティア活動は土砂の石や木を取り除き、畑として使えるようにするための作業でした。10時から15時まで、間で休憩を取りながらの雨が降り寒い中での作業でしたが、YMCA から参加した小学生の働きぶりに、他の参加者は刺激されたようで、活気のある活動を行うことができました。小さな子でも今回のように大きな力となることを実感しました。「ボランティアの参加者は明るく、元気良く作業することが被災者の方々に元気を与える」と代表の肥後さんはおっしゃっていました。帰り道に、たまたま立ち寄ったお店の方が、豪雨時の状況を詳しく教えてくださいました。目の前の川が氾濫し、店の一階部分が浸かってしまうという恐ろしい状況だったと教えてくださいました。しかし、今後また店を立ち直らせ、来年にも再開したいと強い気持ちを話してくださいました。

